

2024年12月期第3四半期決算説明会 質疑応答の内容

<2024年11月14日に開催した決算説明会における質疑応答の概要です>

【回答者】

執行役 CFO 細田 修吾（以下、細田）

質問者 1：3点お願いしたい。1点目は、今回の業績の着地と通期見通しの考え方について教えていただきたい。決算説明会資料の18ページをみると、いくつかのセグメントで通期見通しを変更している。着地で見えている部分を織り込んだのか、それとも見通しを変えたのか。

細田：今回の着地点の修正は見通しと3Qの着地の両面からみている。上方修正の場合は、比較的3Qの進捗が順調な部分およびその結果として着地点が上方に落ち着きそうとの観点から行っている。

質問者 1：補足で伺いたい。19ページで、エネルギーセグメントは年金資産の売却益を織り込んでいる話があった。この規模と、3Qで出ているのか、4Qで見込んでいるのかについて教えていただきたい。

細田：4Qで出てくるとみている。エネルギーセグメントは着地見通しを40億円上方修正したが、この半分弱は売却益によるもの。

質問者 1：2点目は、精密・電子事業の受注動向、特にCMPについて伺いたい。決算説明会資料の15ページを見ると、CMPはQonQで、2Qの283億円から403億円へ比較的大きく伸びていて、4Qも718億円とかなり強い予想になっている。どのようなところで需要や受注が増えてきていて、4Qにどのような案件を見込んでいるのかを伺いたい。

細田：CMPは、中国では少し一服感があるが、生成AI関係でグローバルのお客様が増えてきているのが一つ。あとは、すでにCMPを収めたお客様の工場の稼働率上昇により、サービス&サポート（S&S）の受注を見込んでいる。こちらの市場は、受注の見通しがしにくいところがあるが、現時点の勢いからはこのぐらいまでいくとみている。

質問者 1：通期の受注見通しは2Qから変えていない。引き合いベースで見ると、受注確度は以前より上がってきているのか。

細田：そのとおり。確度については、この業界はお客様の都合で急に変更になることも多く、何とも言えないが、現在の様子からはこのくらいまではいってもおかしくないとみている。

質問者 1：来期この 4Q の勢いが続きそうか、さすがに 4Q の勢いが続くとは考えにくい。来期の受注について、どのように見ているかを補足いただきたい。

細田：この 4Q の 3 カ月間の受注の数値の高さは一過性だとみている。来期は、全体観としては上り調子で、ハイレベルの状況が続くが、この 3Q、4Q の勢いがそのまま続くということではないとみている。4Q のこの数値は一時的な高さともみていただきたい。

質問者 1：最後に 3 点目として、米国でトランプ政権になった場合の、荏原の事業に対するプラスおよびマイナス影響を伺いたい。

エネルギーセグメントは、石油・ガスの投資で追い風になる可能性がありそうだが、精密・電子セグメントでは中国への輸出を含めて、逆にネガティブ要因にならないか。どのようにみているか。

細田：まず、米国の大統領交代により、大きな影響がすぐに出てくるとはみていない。米中半導体摩擦の影響は、急に変わる話ではないとみている。

エネルギーセグメントに関しては、当社は米国国内に、エリオットというエネルギーセグメントの拠点を持っているので、そこを中心に活動していく上では若干、追い風の面もあるとみている。一方で、当社は将来のカーボンニュートラルに向けて様々な活動を行っているので、政策的なカーボンニュートラルに対する考え方は良い面も悪い面も両方あり、トータルではすぐに何か影響があるということではないとみている。

質問者 2：1 点目は、精密・電子セグメントの営業利益率について教えていただきたい。この 3Q の 3 カ月間の営業利益率も高く、2Q から営業利益率は 20%程度が続いている。従来は、一時的に営業利益率が上がることはあるけれど、継続性はまだとの話だった。S&S の比率も上昇し、CMP の数量も出てくる中で、やはり従来よりも利益率が上がってきているようにも思えるが、今はどのようにみているか。

細田：精密・電子セグメントの営業利益率は 20%ぐらいを常に維持する状況まで持っていきたいが、今期の着地点は 17%から 18%の間くらいとみている。

3Q は確かに営業利益率が良いが、固定費の出方は四半期により異なり、4Q は R&D 関連の固定費が少し多めに出るなど、いくつか偏りがある中で、通期の営業利益率は 17%ぐらいで着地するとみている。

質問者 2： 2 点目は、一過性の費用の詳細を 8 月時点の計画対比で確認したい。決算説明会資料の 19 ページを見ているが、のれんの減損マイナス 64 億円と、先ほどの Q&A であったエネルギーセグメントにおける年金資産の売却益のプラス 20 億円弱が一過性の費用か。「その他」のマイナス 25 億円は一過性ではないとの見方でよいか。

細田： 「その他」には、当社の藤沢事業所の中で行っている工場の配置転換費用が含まれる。一過性かといえば、そうとも言えるが、今期から来期にかけて少し出てくる可能性がある費用。以上が 25 億円の主な内容。

質問者 2： 3 点目は、精密・電子セグメントのコンポーネントの受注高について教えていただきたい。決算説明会資料の 15 ページを見ている。3 カ月前の話では、お客さんの稼働率が上がってきているので S&S の受注高も増えて、水準は徐々に良くなっていくニュアンスだったと受け止めているが、Q3 と Q4 の水準感でいうと、Q1 から大きな変化はない印象。中国市場向けで何か減速感を入れているのか、足元の工場稼働率を見た時に 4Q にアップサイドがあるかについて教えていただきたい。

細田： コンポーネントはもう少し上がってきてもいいと思ってたいたところはある。先ほど説明したとおり、全てのグローバルプレーヤーが一気に回復してきているというよりは、多少の濃淡がある。生成 AI に強いところから回復はしているが、設備投資の強さに関しては濃淡がある。その中で、CMP がどちらかというと今、設備投資を旺盛にやろうとしているところに対して強く、少し強気に入っている状況ではある。コンポーネントに関しては、スタートが遅れているお客様のほうに強く、その辺りで伸び悩んでいる。

全体としては高水準にはあるとみているが、回復基調がグローバル全体に広がってくると、いずれコンポーネントにも入ってくるだろうとみている。

質問者 2： CMP の 4Q は一見するとすごく高いように見えるけれど、コンポーネントはグローバルプレーヤーの生成 AI 絡みのお客様の構成や、そういうものに起因したものにより色が出ていると受け止めればいいのか。

細田： そのとおり。お客様ごとの細かい話はできないが、そのような観点で捉えてもらえればよい。

質問者 3： CMP で 2 点お伺いしたい。デジタルな数字でなくともいいが、中国の CMP や精密・電子セグメント全体の受注は、3Q から 4Q の QonQ の実績で下がったか、それとも横ばいか。

細田： 上がっている。

質問者 3：先ほどの、中国を少し弱めで見ているというのは、4Q に下がるかもしれないというイメージか。

細田：勢いに一服感があるということで、上がっていることそのものに関しては、まだ継続。

質問者 3：上がっているけれど、その上がり方が緩やかになっているということか。

細田：そのとおり。

質問者 3：もう 1 点は、旧風水力の事業で、中国メーカーとの競争は、ここ半年ぐらいで激しくなっているか。中国が不景気で、アジアなど他の地域に安価なものが流れていき、特に旧風水力セグメントの製品とバッティングするような事象が目立ってはいないか。

細田：中国国内市場においては中国の国策などにより、特にロースペックの領域においては中国メーカーと競合することは多いが、もともと当社の製品群は、ポンプにしても、コンプレッサにしても、精密・電子の装置にしても、市場の中でもハイエンドの部分 に関してはあまり影響を受けずに来ている。

むしろ競争というよりは、中国市場では建築市場が非常に悪化しているので、建築・設備向けのポンプが、若干、苦戦をしている。それ以外のインダストリアルな部分に関しては顕著に競争が激しくなっていない。

質問者 4：2 点伺いたい。2Q の決算説明会で生成 AI のプレゼンテーションがあったが、改めて、新技術に関する分野での受注割合がどれくらいあったかを、ポジティブな観点で伺いたい。

細田：顕著に増えてはいない。生成 AI などのメモリで使われる HBM を作るための CMP で需要が増えているのは見えているが、多くはない。そういうものが見られ始めているという程度。

質問者 4：もう 1 点は、この 3Q の受注高は CMP 装置で 403 億円。2Q は 283 億円で、QonQ で回復しているが、これはどこが牽引したのか。

例えば 2Q に、DRAM や NAND が遅れ気味との話があったが、今回、牽引したのは DRAM の従来遅れていたお客様か、中国か、ロジックか。受注計画では、4Q はもう一段伸びる前提だが、牽引するのはどの分野、国なのか。ヒントがあれば教えていただきたい。

細田：2Q、3Q の CMP の受注に関しては、まだ中国の伸びが継続している。また、2Q から 3Q にかけては、生成 AI 関係で、大手のグローバルのお客様からの受注が非常に増えてきていて、そこが牽引している。

質問者 4：4Q もその流れが続くとみているのか。

細田：そう。そこはまだ継続するとみている。

以 上